

## 地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の先進的な活動を実際取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

2019年12月17日

場所：神奈川県横浜市

### ○あーすぷらざ（神奈川県立地球市民かながわプラザ）

#### ◆ライブラリー機能も充実。教育指導に特化した相談窓口

あーすぷらざ（神奈川県立地球市民かながわプラザ）は、県民の地球市民としての意識の醸成や国際活動の支援、子どもの豊かな感性の育成を目的に神奈川県が設置している施設です。現在は、指定管理者制度によりJICA海外協力隊のOB・OGが中心となり組織されている（公社）青年海外協力協会（JOCA）が運営しています。事業の一つである、外国人の相談窓口では、一般・法律の相談のほか、外国につながる子どもたちの教育支援に特化した窓口を設けています。電話での相談受付（神奈川への引っ越しを控えた方など、海外を含め県外からの相談もあるそう）の他、窓口には日本人のコーディネーターと各国にルーツのあるサポーターが常駐しています。言語ごとに相談できる曜日が分かれており、予約は不要。国内の教育制度に精通した日本人のコーディネーター、相談者のバックグラウンドや母国の教育制度、考え方の違いを考慮しつつ母国語で通訳ができるサポーターの2名体制です。また、教育相談窓口が設置されている情報フォーラムには外国人サポートコーナー担当の司書も勤務。多文化共生関連の書籍や日本語学習・教科学習のための教材、学校からの家庭への通知文翻訳集などを配架しており、実際に資料を見ながら教育相談ができるのが大きな強みです。階上の展示スペースでは、海外協力隊OB・OGの経験を生かした多様な展示が行われています。ぜひ皆さんも一度訪問されてはいかがでしょうか。



教育相談窓口と充実のライブラリー

教育相談の詳細はこちらから：[http://www.earthplaza.jp/ep/forum/foreign\\_education/index.html](http://www.earthplaza.jp/ep/forum/foreign_education/index.html)

### ○日本語支援拠点施設「ひまわり」

2020年1月29日 場所：神奈川県横浜市

#### ◆全国で初の試み。来日まもない子どもたちへの集中的な日本語指導と居場所づくり

横浜市が開設した来日したばかりの児童・生徒とその保護者の支援のための支援拠点施設「ひまわり」を訪問しました。校長で横浜市教育委員会事務局の出川進さんと元南吉田小学校校長でプレクラス統括指導員を務める藤本哲夫さんに、特に「プレクラス」の取り組みについてお話を伺いました。「プレクラス」では来日まもない子どもたちに4週間の集中的な日本語指導（初期日本語、教科につながる日本語）を行うとともに、日本の学校生活の体験を行っています。実際に地元で通う学校（在籍校）との連携を図るため週の前半（月・火）は在籍校、後半（水・木・金）は「ひまわり」に通う点が特徴的です。3週目を迎えたクラスを見学しましたが、子どもたちがのびのびと学習している様子が印象的でした。



休み時間は校舎脇の校庭で遊べます

単なる日本語指導の場ではなく、来日直後で不安を抱える子どもたちの居場所になっていることが伺えます。藤本氏いわく、「自分だけが日本語ができない」ではなく「みんなできない」からこそ安心して学習に向かえるのではということでした。「ひまわり」では同様の4週間のコースを年間8期実施しており、今年度で3年目を迎えます。今後はこれまで培ったノウハウや「ひまわり」での実践を通して作られた日本語指導の教材を、横浜市の教育関係者に共有していくとのことでした。全国の自治体に同様の取り組みが広まっていくことが望まれます。



～ 市民国際プラザを広く皆様に知っていただくために～

市民国際プラザのFacebookに「いいね！」をお願いします！



## ○NPOまなびや@KYUBAN

2020年1月24日 場所：愛知県名古屋市

### ◆いつでも戻ることができる「居場所」をみんなに

名古屋市港区にある九番団地。外国人住民が三割を占めるこの団地で子どもたちの居場所づくりを行う「まなびや」を訪れました。代表の川口祐有子さんは愛知県豊田市の保見団地で日系ブラジル人たちと出会ったことで、大学卒業後ブラジル人学校に勤務。街中のコミュニティスペースを通して子どもたちの支援ができないかと考え、2008年に九番団地でNPOまなびや@KYUBANを始めました。団地の一角にある和室の集会所が活動の拠点です。川口さんは九番団地の住民ではありませんが、日本人の住民にも積極的に活動を見てもらい、小さな接点を設ける工夫を続けてきました。その結果、住民の方からも理解を得て、活動を行っています。また、まなびやの特徴は、居場所は外国ルーツの子どもたちだけのものではないこと。団地のすべての子どもに開かれています。その結果、外国ルーツの子どもたちが日本人の下級生に勉強を教える光景も見られるそうです。居場所を得た子どもたちは引っ越しても、学校を卒業してもまなびやに戻ってきます。私たちが訪問した日にも進学をしたり、就職をした若者が集まってきていました。現在は他の団地でも同様の居場所づくりをはじめたとのことで、まなびやの活動からますます目が離せません。



九番団地の住民を支える食料店やブラジル料理店

## ○西尾市・多文化共生サポートAdagio

2020年1月24日 場所：愛知県西尾市

### ◆それぞれの強みを生かした連携 自治体と市民団体のパートナーシップ

愛知県西尾市に西尾市地域つながり課の大竹祐佳子さん、長谷川玲奈さん、多文化共生サポートAdagio（アダジオ）の高木祐子さんを訪ねました。総人口17万人の西尾市は、日系ブラジル人を中心に外国人住民が人口の約6%を占めます。地域のボランティアによる日本語教室は開催されていたものの、日本語支援以外を積極的に行う団体がなく、西尾市の勧めも受け、高木さんがAdagioを設立されたことが両者の連携の始まりです。特にニーズの高かった災害時の支援については、市の委託を受けAdagioが情報発信を行っています。その成果の一つが「乳幼児のいるパパ・ママのための防災リーフレット」。やさしい日本語を含め8言語で作成・配布しています。また、外国人住民にとって本当に必要なことは何かを立場を越えて議論しあえる両者の関係性が非常に印象的でした。そして、それぞれの強み（例えばAdagioは市民団体としてのフットワークの軽さや地域を越えたネットワークなど）を生かし、相互に補完しあひながら事業を実施しています。全国でこのような連携が生まれることが望まれます。



親しみやすいイラストで説明されたリーフレット

## ○地域国際化ステップアップセミナーin愛知

2020年1月23日 場所：愛知県名古屋市



活発な質疑応答が行われました

地域国際化ステップアップセミナーin愛知『多様なセクターとの連携・協働 ～外国にルーツのある人々の乳幼児期から老年期まで、ライフサイクルに応じた「支援のつながり」を構築、強化するために～』を開催しました。東海地方を中心に、近畿や中国地方等の自治体、地域国際化協会、NGO・NPO、企業など多様なセクターから90名が参加し、まだ支援が行き届いていない、外国にルーツのある人々の乳幼児期や老年期の支援の在り方について考える機会となりました。今後市民国際プラザのWEBサイトに報告書を掲載予定です。ぜひご覧ください。

市民国際プラザWEBサイト：<http://www.plaza-clair.jp/>